

---

# 読書・学校図書館分科会

---

## I 研究のあゆみ

4月17日(月)	2023年度名教組教研オリエンテーション (2023年度名教組教育研究活動の進め方)	【教育館】
5月2日(火)	発表テーマ報告・集約	
5月19日(金)	研究計画の検討	【教育館】
6月2日(金)	研究内容の検討 (第1次実践の検討と第2次実践の計画)	【教育館】
6月16日(金)	研究内容の検討 (第2次実践の検討と研究のまとめ方)	【津賀田中】
7月～9月	全体での会は開かなかったものの、個別に指導 研究内容の検討(研究のまとめと発表について)	
9月16日(土)	第73回名古屋市小中特別支援学校教職員教育研究大会	【ウインクあいち】

## II 研究協議の概略

様々な分野の本に興味をもつことができる児童の育成をめざして2つの実践が報告された。

1つ目は、図書委員会の企画に参加したり、おすすめ本を紹介したりする実践である。図書委員会の企画「本探しビンゴ」に参加することで、「分類」を意識して本を探ることができた。おすすめの本をグループで紹介し合うことで、様々な分野の本に親しみをもち、興味をもって読書する児童の姿が見られた。

2つ目は、学習者用タブレットを使って、読書記録やこれから読んでみたい本を蓄積していく実践である。蓄積した読書記録を分類ごとに色分けすることで、自分の読書傾向を可視化してとらえることができ、読んだことのない分野の本に興味をもつようになった。友達の読んだ本を共有したり、公共図書館の団体貸し出しを活用したりして、様々な分野の本に触れる機会を設け、これから読んでみたい本として記録したことで、読んだことのない分野の本を進んで読もうとする児童の姿が見られた。

どちらの実践も、子どもたちが様々な分野の本に触れことができるよう、教師が意図的に機会を設定したことで、バランスよく情報を得ることができるようになり、読書の幅の広がりや読書量の増加が見られるという結果につながった。

また、自分が本から学んだことを友達に紹介したり、友達の発表を自分の読書活動に取り入れたりして、今日的な教育的課題である「主体的・対話的な深い学びの実現」「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」にも対応した実践であったと考える。

## III 今後に残された課題

読書活動は、あらゆる学習活動の基礎となり、子どもたちの主体的に学習に取り組む態度を育成し、確かな学びを支えていくために必要不可欠なものである。読書の習慣化や他教科との連携を図るためには、読書環境を整備し、児童が様々な分野の本と触れ合う機会を充実させていかななくてはならない。まずは教師自身がゆとりをもち、多様な本に触れることが大切である。そして、公共図書館や学校司書とも連携し、一層充実した学校図書館の活用の仕方を考えていかななくてはならない。